

平成24年度東京都若年性認知症総合支援センターの実績について

これまでの取組について

◆都のこれまでの取組

- ・平成20年8月 東京都若年性認知症生活実態調査
- ・平成20・21年度 若年性認知症支援部会
- ・平成20年度 東京都若年性認知症生活実態調査
- ・平成21～23年度 若年性認知症支援モデル事業
- ・平成22年度 「若年性認知症ハンドブック」作成

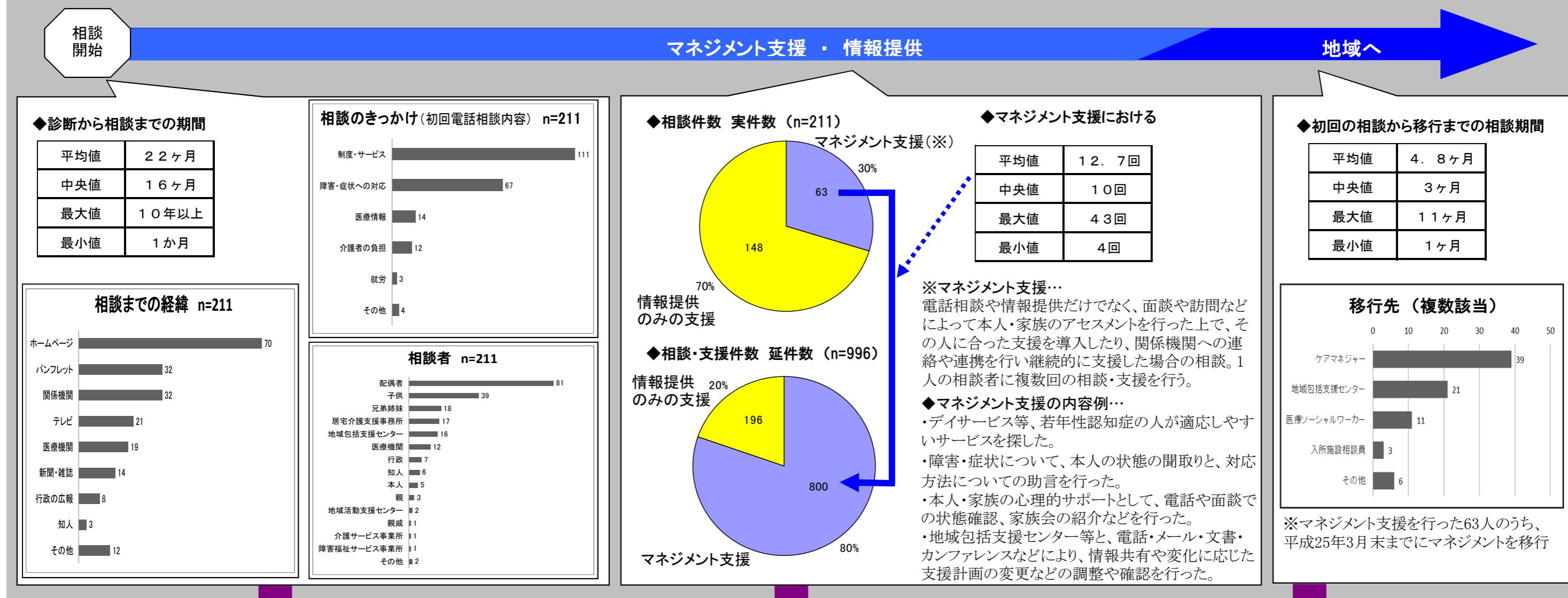
◆モデル事業での実績より

- ・若年性認知症支援のための総合的な相談窓口の設置が必要
- ・本人や家族の状況に対する適切なアセスメントと制度の分野を超えた総合的なマネジメントが必要
- ・家族介護者の心理的負担の軽減に向けた支援が必要

◆東京都若年性認知症総合支援センターの設置・運営

- ・平成24年5月運営開始
- ・若年性認知症本人・家族及び地域包括支援センター等の専門機関に対して、相談のワンストップ窓口を設置することにより、早期に適切な支援に結びつけ、若年性認知症特有の問題解決を図る。
- ・若年性認知症支援コーディネーターによる相談・支援を行う。

東京都若年性認知症総合支援センターの実績(平成24年5月～平成25年3月)



◆診断から相談までの期間をみると、中央値は16ヶ月、平均値は22ヶ月であり、診断を受けてから相談があるまでに1年以上経過しているケースが多かった。

◆相談までの経緯を見ると、ホームページが70件 (33.2%) で最も多かった。

◆初回の相談者では配偶者が81件 (38.4%) で最も多かった。

◆相談のきっかけ (初回相談内容) をみると、若年性認知症の人に対応した制度・サービスについての相談が111件 (52.6%) で最も多かった。

◆相談実件数の211件のうち、63件 (30.0%) に対してマネジメント支援を行った。マネジメント支援における一人当たりの相談・支援回数は、中央値は10回、平均値は12.7回であった。

◆初回の相談から移行までの相談期間は、中央値は3ヶ月、平均値は4.8ヶ月であり、長くかかる場合でも1年以内には相談が終了している。

◆マネジメントの移行先としてはケアマネジャーや地域包括支援センターが多い。